

1. 単元名 LIFEログの振り返り&研究倫理**2. 本時の概要**

本時は、生徒が自身の学びの特性をメタ認知し、探究活動における誠実な態度の重要性を理解することを目指す。前半では、コルブの経験学習モデルに基づき、日々の気づきを記録する「LIFEログ」の意義を再確認する。学習とは単なる知識の蓄積ではなく、経験を変換して知識を創り出すプロセスである。生徒は「体験」「内省」「概念化」「試行」というサイクルの中で、自身の得意・不得意な段階を把握し、今後の学びを主体的にデザインする力を養う。後半では、探究の根幹に関わる「研究倫理(剽窃の防止)」を扱う。中学生にとって研究倫理は、単に「守るべき校則」と捉えられがちだが、本時ではそのルールの背景にある意義の理解に重点を置く。レポート課題で剽窃をしてしまった生徒に対し、教員・研究者・法律家という3つの異なる立場から説明を試みるワークを通じ、多角的な視点から倫理の必要性を検討する。設定の理由は、探究活動が本格化する時期において、学術の世界が先人の業績(巨人の肩)の上に成り立っていること、そして著作権の保護と公正な利用のバランスが文化の発展に寄与していることを理解させるためである。これにより、ルールを外的な強制としてではなく、よりよい社会の実現のために自ら守るべき規範として内面化させることをねらいとしている。

3. 本時の目標

- 学習サイクル(体験・内省・概念化・試行)をもとに自らの学びの特徴を捉え、他者との対話を通じて今後の学び方を工夫し、メタ認知能力を高めながらそれを自分の言葉で表現できる。
- 剽窃の背景にある「不正のトライアングル」や学術的信頼性の意義を理解し、研究倫理を「定められたルール」として受動的に守るのではなく、誠実な探究活動を自ら進んで行おうとする意識を持つ。
- 学校の先生、研究者、法律家という多様な立場から剽窃の問題を多角的に検討し、レポート作成における出典明示や引用の重要性を、文化の発展や学術の継承という広い視点から理解できる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第31回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 参考文献:
 - 登本洋子・伊藤史織・後藤芳文(2023)『改訂版 学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼン

テーション』玉川大学出版部

- 岡本尚也(2021)『課題研究メソッド 2ndEdition—よりよい探究活動のために』新興出版社啓林館
- 科学技術振興機構(2024)「JST研究倫理教育映像教材 season2 倫理の空白Ⅱ 盗用編 自然科学編 グループワーク実践用」
https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie/assets/img/gap_sinethics2_2/gw_guidebook2_2.pdf アクセス年月日2025年2月5日
- 立教大学図書館(2016)「レポート作成ガイド 図書館を利用しよう」
https://library.rikkyo.ac.jp/learning/reportguide/asset/pdf/rikkyo_report%20guide.pdf アクセス年月日2025年2月2日
- 片岡則夫(2021)『ちくまQブックス マイテーマの探し方—探究学習ってどうやるの?』筑摩書房
- 文部科学省「著作権(ちょさくけん)ってなに?」
https://www.mext.go.jp/kids/find/bunka/mext_0008.html アクセス年月日2025年2月2日

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	「自分の学び」の振り返り(導入) ・「学び」とは知識を覚えることなのか、体験だけで「学んだ」と言えるのか、といった問いを通して、「学び」の本質について思考を深める。 ・コルブの「経験を変換することで知識を創り出す」という定義を共有し、受動的な知識の受け取りだけでは学びのサイクルが回らないことを理解する。	・「知っている」と「分かっている」の違いなど、身近な例を挙げて生徒が自分の言葉で考えられるよう促す。 ・経験学習モデルの図を示し、「感じ、受け取り、考え、やってみる」という各段階のつながりを視覚的に説明する。
15分	学習サイクルWS ・現在の自分がどの段階(体験・内省・概念化・試行)を得意としているかを振り返り、その理由をスクールタクトに記入する。 ・グループ内での共有を経て、将来に向けてさらに伸ばしたい、あるいは補強したいサイクルをデザインする。	・SSコンピテンシーの「メタ認知能力」に焦点を当てた活動であることを強調する。 ・単なる感想で終わらず、具体的な学習場面(テスト直しや実験など)を想起させて振り返りを具体化させる支援を行う。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
5分	「コピペをしただけなのに」導入 ・「剽窃」の定義を確認し、不正が起こる背景としての「動機」「機会」「正当化」からなる「不正のトライアングル」について学ぶ。 ・本時のメイン課題である「剽窃をしたAさんへの説明」の状況設定を把握する。	・「剽窃」という言葉の意味を改めて明確にし、探究活動においてなぜそれが禁忌とされるのか、生徒の興味を惹きつけるタイトルで導入する。 ・不正の要因が身近なところにも潜んでいることを意識させる。
10分	本時の課題(プレ・ワーク) ・Aさんが今後剽窃をせず、正しい方法で積極的にレポート課題に取り組もうと思えるような説明を考え、スクールタクトに記入する。 ・現時点での自分の考えを整理する。	・「先生」という立場になりきって、どのように声をかければ相手の心に響くかを考えさせる。 ・他者の文章を適切に扱う「引用」の方法についても再確認させる。
10分	学校の先生の視点からの説明 ・レポートと感想文の違い、レポートの3要素(問い・結論・理由)について学び、客観的根拠の重要性を理解する。 ・探究学習が「自分は何者か」という問いにつながる意義について、文献資料を通して考える。	・「客観的」の意味を、具体的な比較例(SさんとTさんの会話)を用いて直感的に理解できるよう支援する。 ・なぜ学校がレポートを課すのか、その教育的意義を考えさせる。
5分	ワーク(先生の視点整理) ・先生の立場からの説明を聞いて、重要だと感じたポイントをスクールタクトにメモとしてまとめる。	・メモを取る時間を確保し、後でAさんへの再説明に使えるように整理させる。
【2時限目】		
10分	研究者の視点からの説明 ・「巨人の肩の上に立つ」という言葉を通じ、学術の世界が先人の業績の積み重ねであることを理解する。 ・不正なデータ(嘘の肩)が学術界全体の信頼性を揺るがすリスクについて検討する。	・ニュートンの逸話を引用し、過去の研究を尊重しつつ自分の知見を積み上げることが「研究」の本質であることを伝える。 ・出典明示が、読者の検証可能性と信頼性向上に寄与することを具体的に示す。
5分	ワーク(研究者の視点整理) ・研究者の立場からの説明を聞いて、重要だと感じたポイントをスクールタクトに記入する。	・「後世の人のための礎」になるという、研究活動の公共性・継承性という視点に注目させる。
10分	法律の専門家の視点からの説明 ・著作権が創作者を守り、文化を維持するために不可欠な権利であることを学ぶ。	・自分の好きな音楽やアニメ、キャラクターなど身近な著作物を想起させ、創作者への共感を促す。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
	・著作権法の目的が「文化の発展」にあり、権利の保護と公正な利用のバランスが重要であることを理解する。	・単なる規制ではなく、よりよい文化を創るためのルールであることを強調する。
5分	- ワーク(法律家の視点整理) ・法律の専門家の立場からの説明を聞いて、重要だと感じたポイントを記入する。	・「モノを作る人」と「利用する人」の両者が気持ちよく暮らせる社会という視点で整理させる。
20分	- 本時の課題(ポスト・ワーク) ・これまでの多角的な説明を踏まえ、改めてAさんへの説明を記述する。 ・学びのサイクルの振り返りと研究倫理の理解を統合し、本時のまとめを行う。	・プレ課題の時よりも、ルールの背景(学術的意義や文化的意義)に触れた、より深みのある説明になっているかを確認する。 ・今後の探究活動に前向きに取り組もうとする姿勢を評価・支援する。